

## 避難所の備蓄を当てにしないでください !!

横浜市が、市内の各避難場所(地域防災拠点:緑園6丁目は、緑園東小学校)に災害時に備蓄している食料・水は、一律右表のとおりです。

横浜市に影響すると予想される大地震としては、東海、関東大震災の再来と言われる南関東地震や神縄・国府津一松田断層帯、三浦半島断層帯などの地震が予想されています。そのうちの被害が一番大きいと想定されている南関東地震では、泉区内だけでも避難者は24,000人に達すると見込まれています。

クラッカー	2,000食
おかゆ	440缶
粉ミルク	19セット(哺乳瓶付)
水	2,000缶

区内には23か所の地域防災拠点があり、1拠点平均1,000人強となりますので、拠点の備蓄の少なさをご理解いただけると幸いです。

## 各ご家庭で、最低3日分の備蓄をしましょう !!

災害発生時には、食料や日用品の購入は難しくなります。避難所に行っても、上記のとおり、頼りになりません。

「自分の身は自分で守る」ためには、最低3日以上分の食料、水、トイレ、その他、各人で必要となるものを、ぜひ備蓄しましょう。そして、定期的に点検しましょう。



食料	簡単に食べられるインスタント食品や缶詰、レトルト食品などの保存食を。
水	1人1日3リットルの飲料水が必要と言われています。家族に人数に合わせて、ペットボトル等で、準備。 消火用、トイレ用の水などのために、風呂の残り湯も溜めておきましょう。
トイレ	断水時でもトイレが使えるように、トイレパック(凝固剤・消臭剤などとセットになった携帯トイレ)の準備
各自が必要なもの	メガネ・コンタクト、常備薬、入れ歯、アレルギー対応食料品など

帰宅グッズ	チェック
簡易食品・飲料水	
歩きやすい靴	
地図	
携帯ラジオ	
懐中電灯	
携帯電話	
同上充電器	
雨具・タオル	
動きやすい服	

## 外出先で、地震にあったら…

いつ起きるか分からない、またいつ起きてもおかしくない地震。外出先で地震が起きたら、どうしますか。

交通機関はマヒし、帰宅が困難になります。事前に帰宅ルートを考えておく、歩いて帰る訓練をしておく、翌日以降に帰宅するようにする、などの対策を。

また、左表のものは、外出時に持ち歩くと良いものとして推奨されています。

